



愛宕神社.....五穀豊穣を祈る

一〇一段の石段を登ると樺の大木のもとに享保二〇年(二七三五年)に建立された祠がある。災害からの守り神でありまた五穀豊穣を授けると言われている。例祭は五月十二日に行なわれ歌舞伎が奉納されている。例長かった冬が終りやつと春を迎える季節で村人の最も楽しみにしている祭りでもある。また此の祭りが終るとおのおの出作り小屋に出かけて農作業や山仕事に専念するのである。

六地藏.....路傍にたたずむ石仏

山間の高冷地である為に昔は農作物の収穫が少なく特に凶作の年は餓死年とさえ言われ、食べる口をへらす為に涙をのんで現世を見せず我が子を他界させるという人の親にあるまじき悲惨な事が秘かに行なわれていた。そこで享保十五年(一七三〇年)その幼児達の霊を慰める為、六体の稚子像を建立したもので今日でも手向花や香の煙が絶えることはない。